

も冷静に聞くととても恐ろしい言葉ですよね。一度も歯医者に行ったことがない方でも、きつと「怖い、痛い」と想像して鳥肌が立つでしょう。

さて、この「歯の神経」とはどのようになっているか、どのように「抜く」のでしょうか。

皆さんご存知のように歯の中に神経があるのですが、実は、神経だけではなく、血管も含まれています。歯にはこの血管や組織が入っている空間があります（筒状）。しかし、単に格納されているわけではありません。そこからもっと細かい神経や血管が歯の組織の中に入っているのです。下の写真は上の小臼歯（糸切り歯の後ろの歯）の神経や血管の走行状態の一例です（神経の通っていたところに墨汁を流し込んでスライスしたもの）。どうですか、皆さんが思うほ

どシンプルではないのではないでしょう。もっと奥歯になるとさらに複雑に。

この「神経を抜く」という作業は意外と大変です。写真のよ



うに見えていれば作戦も立てられるかもしれないですが、基本的にはまったく情報がありません。レントゲンでもほとんどわかりません。僕たち歯医者は、それぞれの歯に特徴的な形は理解しているのですが、まずは大きな管をきれいにしていきます。このとき、ギザギザのついた針を入れ、周囲の組織ごとこさぎ取るという作業になります。皆さんには「歯をゴリゴリ削られた」という感覚でしょう。それから薬品をその中に入れ、枝葉の部分をきれいにしていきます。この

作業を数回続け、症状がなくなれば一段落です。

よく、「歯の神経を抜いたのにまだ痛いのはなぜですか？」と聞かれます。もちろん治療は僕たちの責任ですからつらいところですが、単純に取りきれなものでもないことも知っておいてください。以上、ささやかな言い訳でした。

今後のお休み

今月初旬の休診に続き、八月はお盆休み、九月初旬は学会参加のため休診させていただきます。それ以降も講演会などで単発的に休診があります。ご迷惑をおかけしますがご理解ください。具体的な日程が決まりましたらお知らせします。